

ヒトと動物 共生の道探る

石巻専修大学 理工学部生物科学科准教授 辻 大和さん(44)



先端技術の研究者

最先端で活躍する科学者を紹介するシリーズの最終回は、石巻専修大学理工学部生物科学科准教授の辻大和さん(44)です。サルの行動が、周りの動植物にどのような影響を与えるかを調べ続けています。野山を歩いて動物を観察する研究は「思いもよらない発見があって楽しい」と目を輝かせます。

石巻市東部の牡鹿半島の沖ノきに金華山という島があります。シカがたくさんいることで有名ですが、サルも多く生息しています。辻さんは大学3年生だった1999年からずっと、このサルがどのような生活をしているかを調査してきました。

「海に囲まれた金華山はサルの行動範囲が限られるため、観察しやすい」と、辻さんは話します。サルが何を食べ、どこで休んだり寝たりするのか。群れの中のランキングはどうなっているのか。サルを驚かせないように追い掛けながら観察します。



サルは果物やドングリなどが好物。初めてのころは、えさとなるドングリが豊作か不作かで、サルの数にどのような影響があるかなどを調査していました。不作の年は、ランキングが低いサルは栄養を十分取れず、死んだり赤ちゃんを産



学生と作ったシカの頭の標本を持つ辻さん

つじ・やまと 北海道釧路(くしろ)市生まれ。東京大学大学院農学生命科学研究科修了(しゅうりょう)。2020年4月から石巻専修大学准教授。哺乳(ほにゅう)類の生態学が専門(せんもん)。

金華山のサルとシカは、食べ物を通してつながっていた。この発見を辻さんは「関係なさそうに見えても、生態系ではつながりがある。自然の面白さ、奥深さが分かった」と説明します。

動物の食べ物の研究をふまえて、現在はサルやイノシシ、クマが人里に出没しやすい年かどうかを予想したり、対策案を考えたりすることにも乗り出しています。石巻市でネコやシカが車にひかれた場所を調べて、運転手に注意を呼び掛ける看板をどこに設置すれば効果があるかなども、学生と一緒に探っています。

辻さんは「生態系の研究を深めれば、ヒトと動物が共生できる道を考えられる。金華山や牡鹿半島で得られた知識を社会に還元したい」と意気込みます。

大学生時代からずっと通っていた金華山に一番近い大学で、准教授になれたのはうれしいうれしい限り。大学の演習林にはシカやリスが現れるので、最高の環境です。動物を追い掛けるフィールドワークを続けながら、お世話になった石巻に少しでも貢献したいですね。

サルの魅力を追究

観察続け地元にも貢献

動物を研究する道に進んだきっかけを、辻さんが話してくれました。



小さいころに引越した富山県は自然が豊か。クワガタやカブトムシ、ザリガニを捕まえ、家で飼うなどしました。動物が大好きで、なんとなく「将来は動物を研究したい」と考える小学生でした。

中学生の時、映画「ゴジラVSビオランテ」を見て、バイオテクノロジーも面白いと思い、工業高等専門学校に進学しまし

た。ただ、高専で学ぶのは細胞や微生物など目に見えない生き物。予想と



オーストラリアのロットネスト島でカンガルーの仲間クオッカと2017年7月

違って落ち込みました。

将来の進路をどうするか悩んだ時、気分転換に東京の動物園や水族館を訪ねてみました。「やはり動物を研究したい」と考え、東京大学の農学部へ編入しました。

大学時代、上野動物園で動物について解説するガイドのボランティアをしました。担当はサル山。ボランティア仲間みんな40頭近くいるサルを見分けられました。最初は見分けられませんでした。が、ずっと観察していると特徴がつかめるように。サルの魅力にはまると決めました。

金華山でフィールドワークをするようになった



石巻専修大学の演習林に現れたカモシカとリスの動画が河北新報オンラインニュースで見られます。